

# 「山や自然のすばらしさをたくさんの人に伝える

## 山岳ガイドさんになりたい」体験入門



1日目は、国立登山研修所と立山カルデラ砂防博物館に入門させていただきました。

まず午前中に行った国立登山研修所では、大学生さん達の練習している姿や装備品について学習している姿を見学し登山をするときのポイントや気をつけることを学びました。



クライミングの壁では、60Kgの重りを人と見立てて、もし岩場からロープでつながっている相手が落ちてきた時に、自分の体重で支えられるかのトレーニングをしていました。また、テント場では雨が降ってきたり天候が悪いときに速くテントを設営できるかの練習をしていました。みんな素早くテントを貼っていたのですごいなと思いました。

実際にガイドとして活動しておられる山本さん、笹倉さん、加藤さんにインタビューをさせていただきました。研修の合間を縫って質問に応じていただきました。

質問で心に残っているのは3つあります。

1つ目は「ガイドをやって良かったことはありますか？」という質問で「お客さんが笑ってくれること」と言われていたことです。

お客さんのことを一番に考えて案内することを覚えておきたいです。

2つ目は「ガイドさんになるために一番大事なことはありますか？」という質問で「真剣に登山をする」と言われたことです。

登山と真剣に向き合うことは大事なことだなと思いました。

3つ目は「立山のいいところは何ですか」という質問で「山岳警備隊が素晴らしい」と教えていただいたことです。

富山の山岳警備隊がそんなに優秀だと言うことを初めて知りました。



山本さんに熊に出会った時の話を聞かせていただきました。

笹倉さんにガイドさんになるために必要なことを教えていただきました。

加藤さんにピンチの時どうしているのか教えていただきました。



午後からの立山カルデラ砂防博物館では飯田先生に立山の自然や歴史などを教えていただき、「上昇する山」「氷の山」「火の山」「水の山」について学びました。



立山は地上が盛り上がりできたので「上昇する山」と呼ばれています。また、氷河についても教わり、「水が大地を削るときはVの形になるけど、氷河が落ちるときはUの形が残るよ」と教わり、山に登るときに探してみたいと思いました。教わった中で特に印象に残っているのは、「山に登るときは山のことをよく知り、怖さ、自然をよく知る」ということです。この話を聞いて、今まで何気なく登っていた山だけでもっとよく考えて登らなくてはいけないということに気がつきました。また「雷鳥は冬にどうやって生活していますか？」という質問で「雪があまりないところに植物の芽を求めて集まったり、木の根元や雪に穴を掘って生活している」と教えていただきました。雪に穴を掘ったりすることを初めて知りました。もっと雷鳥を観察してみたいと思いました。



2日目は立山周辺の登山なので、1日目で教えてもらったことを意識して登りたいと思いました。



## 2日目は、学生さん達と立山駅から室堂へ行きました。

学生さん達が無線で状況を報告したりルートを確認したりしている姿を見て、今から行くルートを把握しました。

ルートは、雷鳥沢キャンプ場を通過して剣沢方面に向かって登るコースでした。学生さん達は登るのが速そうなので、必死について行って、ガイドさん達や学生さん達がどんな登り方をしているのかちゃんと見ようと思いました。

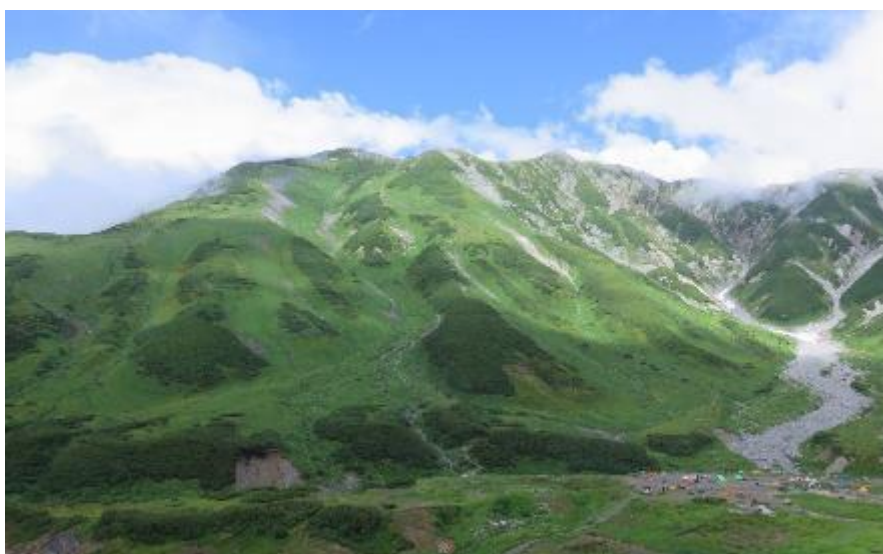
ガイドさんや学生さん達は、登りやすいところを見つけてジグザグ進んでいました。

私も、登るときに心がけていきたいと思いました。

登っているときに、ガイドさんや学生さん達が声をかけてくれて嬉しかったです。

お客さんのことを一番に考えていることが伝わり、見習いたいなと思いました。





### [感想]

コロナ感染拡大で大変な時でしたがみなさんに親切にいただき、本当にたくさんの貴重な経験をさせていただいて、登山に必要な技術や山の自然などをたくさん教えていただき、とても勉強になりました。

教えてもらったことを心がけて、これからもたくさん登山をして皆さんのようなガイドさんになりたいです。

